

平成 28 年度
第 1 回
総合教育会議議事録

日時 平成 28 年 5 月 31 日（火）午後 4 時～

場所 いわき市生涯学習プラザ 4階大会議室(1)

第1回総合教育会議 議事録

- 1 日時 平成28年5月31日（火） 午後4時～5時30分
- 2 場所 いわき市生涯学習プラザ 4階 大会議室(1)
- 3 出席者 いわき市長 清水 敏男
いわき市教育委員会 教育長 吉田 尚
いわき市教育委員会 教育委員 馬目 順一
いわき市教育委員会 教育委員 蛭田 優子
いわき市教育委員会 教育委員 山本 もと子
いわき市教育委員会 教育委員 根本 紀太郎

いわき商工会議所 会頭 小野 栄重（ゲストスピーカー）

- 4 報告事項 いわきアカデミア推進協議会について
- 5 協議事項 地域社会が求める人財について

1 開会

（司会）

それではお時間となりましたので、始めさせていただきます。
本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
只今より、平成28年度第1回いわき市総合教育会議を開催いたします。
はじめに、清水市長よりご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

（清水市長）

皆さんこんにちは。
第1回いわき市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。
吉田教育長さんをはじめ、教育委員の皆様には日頃より本市教育の充実発展、さらには、子どもたちの健全育成のためにご尽力を賜りまして、改めまして感謝申し上げます。

さて、昨年度より、当会議を設置させていただきまして、皆様から様々な貴重なご意見をいただき、本年2月、教育先進都市「いわき」の実現に向けた、本市の教育大綱を策定したところでございます。

この大綱に基づき、基本理念に掲げる「地域全体で人を育てる」仕組みづくりを具体的に進めていくため、本年度におきましても、皆様と協議を重ねて参りたいと考えております。

本日の会議では、いわき創生総合戦略及び大綱に位置付けております重要施策の具現化に向けた取組みとしまして、先般、官民連携のもと設立いたしました、いわきアカデミア推進協議会についての報告をさせていただいた後、ゲストスピーカーとして県教育委員でもいらっしゃいます、いわき商工会議所の小野会頭をお招きしておりますので、地域社会が求める人財につきまして、本市の将来を見据えながら意見交換をさせていただきたいと思っております。

皆様には前回同様、忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

次に、吉田教育長よりご挨拶をいただきます。

3 教育長あいさつ

(吉田教育長)

それでは、教育委員会を代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。

清水市長には、日頃より、本市教育行政の進展にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、市長のご挨拶にもございましたが、昨年度当会議におきましては、本市が目指すべき教育・学術・文化の振興に関する施策の基本的な方向性等について、5回にわたり議論を積み重ねて参りました。

そして、本年2月には、市長によりいわき市教育大綱が策定されたところでございます。震災から5年が経過しまして、復興から創生へとひとつの節目を迎える本年は、未来を見据え大綱に掲げる、地域が人を育み人が地域をつくるという理念のもと、新たな一歩を踏み出すべき年となっております。

本日は、いわきアカデミア推進協議会の報告がございましてことや、また、商工会議所の小野会頭とともに地域社会が求める人財について、意見交換をさせていただく予定となっておりますが、大綱に掲げる理念の実現に向けて、本年度の総合教育会議のスタートに相応しいものであると感じております。

教育委員会といたしましても、本日の意見交換を踏まえながら、教育先進都市「いわき」の実現に向け、様々な取組みを進めて参りたいと考えておりますので、よろしくお

願い申し上げます。お世話になります。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、報告事項に移らせていただきます。

会議設置要綱第4条の規定によりまして、市長が議長になりますことから、会議の進行をお願いしたいと思います。それでは、市長、お願いいたします。

(清水市長)

はい。それでは暫時、議長を務めさせていただきます。

ご協力の程、よろしくお願いいたします。

まず、報告事項、いわきアカデミア推進協議会について、事務局の説明を求めます。

4 報告事項

(事務局)

創生推進課でございます。今年度も、こどもみらい部、教育委員会との連携のもとに、引き続き事務局を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、報告事項でございますが、いわきアカデミア推進協議会の設立について、お時間の関係もございますので、ポイントのみ説明させていただきます。

まず、報告事項資料1番目、復興の先を見据えた「いわき」のまちづくりでございます。昨年度の総合教育会議の中でもご議論させていただきましたが、いわきのこれからの地域のあり方を考えるうえでの重要な要素となる人口の推計、動きの一部を掲載しております。

特に、いわきの場合は、社会動態に課題があるということで、若者たち、高校を卒業する世代、グラフの左側ですが、特に18歳の子達が首都圏を中心とした市外に出てしまうということが大きな課題になっております。また、右側、これは市全体の人口推計ということでございますが、一番下のブルーのラインがいわゆる単純推計、これで申しあげますと2030年で27万5千人、2060年で15万3千人まで人口が減少することが予想される。その中で様々な取組み、自然動態、社会動態を含めた施策をうつことで、緑のところまで、2030年で30万、2060年で22万7千人というところまで、なんとか人口の減少を食い止めていこうという取組みを、これから施策全体として進めていくということでございます。

3ページでございます。こういった課題に対して、次世代を担う人財育成こそが生命線と題しておりますが、今回、策定いたしました総合戦略あるいは教育大綱の中で様々な取組みを位置付けているところでございます。

まず、上が総合戦略ということで、人のエネルギー、地のエネルギー、産業のエネル

ギーそれぞれを全体として高めていくということでございますが、特に今回、いわきアカデミアに関係するところでは、人のエネルギーでグローバル人材育成、また、産業のところでは、いわきで働きたくなるプロジェクト、こういったところをまず第一歩として、しっかりとやっつけていこうということでございます。

また、4ページ、これは既に皆様のご議論のもとに策定した教育大綱でございますので、改めましての説明は省略いたしますが、教育先進都市「いわき」の実現に向けて、大綱の基本理念、地域全体で人をつくっていくところを、これから一步一步、具体化していくということが打ち出されているところです。

5ページからが、今回のいわきアカデミアの内容になります。大きな3番目ですが、地域一体で次世代につなぐ「知の拠点」づくりということで、いわき独自の、いわきオンリーワンの一貫した人財育成プログラムに挑んでいこうという内容でございます。

どのような子どもを育てたいか、これは前年度ご議論いただきました、ふるさといわきに誇りと愛着を持つ子どもから、未来に夢を持ち挑戦し続ける子どもまででございます。一方で課題としては、子ども達が育つ過程で地域の歴史あるいは文化をもっと理解をすることが必要だと、また、高校生が人生を選択する重要なステージにあります、高校生こそ地域の課題に向き合う、そして自分の人生を考えるキャリア教育の取組みが必要だろうという位置付けでございます。下のグラフですが、小学生から社会人まで、グレーのところは現在取組んでいるところでございます。例えば、中学生であれば生徒会長サミットや志塾、また、小・中ともにElemにおける経済教育に取り組んでおります。

一方でブルーのところ、これがこれからアカデミア推進協議会を中心に進めていこうというところです。大きくは、今、抜けている高校生の取組みというところで、地域の未来、そして自分の未来を重ね合わせるような取組み、これを高校生向けのキャリア教育プログラムとして新たに着手しようというもの、また、小・中学生のところでも、子どもたちにもっともっと地域を知ってもらう取組みとして、歴史・文化・産業の副読本の作製や企業の社会科見学、これをメニュー化して、先生方が使い易いかたちを模索しよう、また、大学生のところをご覧いただきますと、UIJターンを促進する取組みとして、首都圏に出ている特に大学生に向けた、地域の企業へのインターンシップあるいは給付型の奨学金制度、こういったものを全体として取組んでいこうという考え方でございます。

また、その下支えをする仕組みということで、仮称でございますが、教育ファンドとしてのいわきアカデミアファンド、官民の出捐をいただきながら、教育のプログラム、長期にわたって取り組んで行けるようなファンドも検討していこうということでございます。

6ページでございますが、いわきアカデミアの全体構想を示してございます。先進的な高校生向けキャリア教育、インターンシップ等々を進めて参ります。また、上の方に

ありますが、こういった取組みを小・中・高、それぞれの教育の現場へ波及していく、また、大学・高専等とも様々なプログラムの連携をしていこうということでございます。

また、右側にはいわき若者会議、在京のいわき出身の学生等で昨年度から取組みを進めて参りました。こういったところとも連携をしていく、下の方は、民間団体のプロジェクトともうまく役割分担、あるいは一緒にできるものはやっていこうということでございます。

また、ファンドの方は、地元あるいは在京の経済界の皆様、金融機関あるいはクラウドファンディング等、様々な手法を用いて、このファンドを下支えするような取組みを進めて参りたいと考えているところでございます。

7ページでございますが、こういった取組みを進めていくための推進体制の確立ということで、いわきアカデミア推進協議会、去る5月23日に設立をさせていただきました。これは、本日もご出席をいただいておりますが、小野会頭の強いリーダーシップのもとに、商工会議所と私共、市と、そして県の三者の共同事務局という新しい形をとりまして、地域全体でこの協議会を進めていこうということで、26名の委員、各界各層の方々にお集まりいただいて、まず第一歩を記したところでございます。この具体的な事業の企画・運営をこの協議会で担っていくというような取組みでございます。

また、今年度、アカデミアの事業として計画しております内容について、ご説明いたします。

まず、9ページがこのアカデミアの事業計画のひとつ、高校生向けキャリア教育プログラムに関してでございます。①として地域課題と向き合うワークショップということで、中学生の志塾に関してはどちらかという日本を代表する、あるいは東京で活躍されている方々を講師として迎えております。高校生の方は、むしろ地域で様々な産業あるいは地域の活動で汗を流していらっしゃる方々、こういった地域を支えている方々にスポットを当てて、座学ではなくフィールドワーク、活動の現場に行ってその状況を見ながら、お話を聴いて、その方の人生を通して地域の課題を自らのものとして考えていくような取組みを検討しています。これが基本ラインです。

また、発展ラインとして、FROMプロジェクト、これは慶応大学の学生を中心として、いわきの高校生をより具体的な地域の課題をプロジェクトにしていくための方法論、これをアクティブラーニングというカタチで進めております。こういったものとの連携、あるいは地域で今行われている活動をみんなで支えようと、浜魂（ハマコン）という活動がありますが、高校生版浜魂というようなどころにも発展させていこうということで考えております。

10ページですが、現時点で未調整のものもありますが、今年度に関しての5回の高校生のワークショップでございます。第1回から第5回まででございますが、ものづくり、あるいは地域医療、ICT、農林水産業、福祉介護の現場に飛び込んで、その現場の状況を目の当たりにしながら、自分に何ができるかを考えるプログラムにしていきたいと

思っております。

11 ページ、このスケジュールのイメージですが、8月、夏休みからワークショップを始めまして1月まで、2か月に1回位ワークショップをしながら振り返りの意見交換、あるいはFROMプロジェクトとの連携、後ほど説明いたしますスチューデントカンパニー、同時並行的に進めて行って3月の第5回を最終的なプレゼンテーションの場にしていきたいと考えております。

また、②ですがスチューデントカンパニープログラム、こちらも同時並行的に進めていきたいと考えています。これは、Elemのプログラムの提供元である公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本と連携をしまして、高校生を対象として実際に会社を経営していくノウハウ、難しさを学んでいこうということで、実際に200円の資本金を100名から出資を仰ぎます。2万円の資本金で具体的に地域課題に対して、自分たちがどういうサービス、モノをつくって、それを届けて、会社を成功に導くのか、もちろんこれは失敗もあるんですが、そこを含めて実体験をしていく、16週間に及ぶ会社経営を実際にやっっていこうというものでジュニア・アチーブメント日本との連携のもとに進めていきたいと考えております。

13 ページ、大きな2番目ですが、インターンシッププログラムということで、地域で働く自分をイメージしていこうというものでございます。今までは、市内の大学生向けにはこういったものはやっていたんですが、首都圏の大学生には、まだやれていなかったということで、初めてチャレンジしようというものです。この二本立てで、①は体験型のインターンシップ、これは市内企業約200社を対象として、広く浅く体験するというもの、②は、非常に興味深いもので、実践型インターンシップという言い方をしておりますが、5~10社絞って、実際に1か月なり、2か月なり、実際に夏休みなどを利用して会社に入って、担当業務を命ぜられます。“君はうちの広報をやりなさい”あるいは“営業しなさい”ということで、もちろん社員の方々に付いて、自ら企画、あるいは営業をして会社に貢献するというような体験をしていくことで、自分の適性を把握する、経験を積むというようなプログラム、これらを、図にあるように、いわき若者会議と連携しながら、ぜひともいわきに戻って来たいと思うような子には、戻って来れる環境をつくっていくということを考えております。

また、③の小・中学生インターンシップ、これは社会科見学、今も先生方がご苦労されて、企業をお願いをして行っているケースもございます。これもやはり、地域側がそれをメニュー化して、先生方が使い易いプログラムを提供しようと、こちらも商工会議所の皆さんと今、設計をしているところでございます。

また、大きな3番目、(仮称)アカデミアファンドの創設に向けた検討ということで、今申し上げたプログラムを継続的に行っていくには、かなり財源も必要とするということで、行政だけでなく地元の金融機関、市外の企業の皆様の出捐をいただきながら、子ども達の学びの場を確保していこうというような取組みをしていくための検討に着手

をしていきたいと考えております。

最後に 15 ページ、今後のスケジュールですが、先ほど申し上げたような段取りで進めて参りたいと考えております。特に高校生の志塾については、7 月 2 日に KICK OFF イベントとしまして、こういったワークショップや事業をやっていくので、みんな一緒にやらないかというプレゼンテーションの場をもちたいと考えております。それを経て、夏休み、8 月の半ば位から第 1 回目の事業に着手をしていこうと考えております。KICK OFF イベントですが 16 ページ、7 月 2 日、いわき P I T で開催を予定しております。県立高校の校長会の先生方にもお願いをしているところですが、高校生の参加を得ながら、当日は、いわき F C の大倉社長のご講話をいただきながら、なぜ J 1 の湘南ベルマーレを辞めてまで、いわきで夢を実現したいと思ったのか、ということもお話を聴いて自分の将来を考えてもらうきっかけにしたいと考えております。また、様々なプログラムの講師陣からひと言 P R なども予定をして、高校生のモチベーションを上げていくということを考えているところがございます。まだまだ第一歩目の取組みですので、これから 2 年、3 年と中身を充実させながら進めていきたいと考えているところがございます。説明は以上です。

(清水市長)

只今事務局より、いわきアカデミア推進協議会についての説明がありました。これにつきまして、何かご質問等ございましたらご発言願いたいと思います。

先ほども説明がありましたが、市は義務教育ということで、高校生は福島県に重きがあって、市はそこまでタッチしなくてもという想いがあつたんですが、人口変動の中で、いわきを離れると戻ってこないという傾向が強いということで、高校生にも積極的にふるさと教育ではないが、アプローチしていこうということでの始まりです。

また、生徒会長サミットや志塾の O B が、ほとんど高校生になって縦の関係ができてきましたので、一種の志塾的な先輩後輩というのが非常に良い形になってきているのではないかと思います。先輩が後輩を指導する、あるいは横のつながりと、良い形でできているのではないかと思います。

(根本委員)

教育委員会の方でやってきた小・中学生への事が生きるプログラムではないかと、とても素晴らしいと思います。また、商工会議所をはじめ、産業界の皆様とも連携を図っていて、やはり“総合政策部”ということで、感心して拝見していました。とても楽しみだなと思っています。

(清水市長)

これと直接連動しているわけではないですが、医師不足、いわき市出身でもない方に、

いわきに来てというのも限界があるだろうということで、まずはいわき出身の医者の子を育てていこうと、今年の春、医大に合格した学生を集め、私と保健所長と医師会の会長とで初めて懇談会をしました。学生も保護者の皆さんも非常に喜んで下さって、その中で共立病院の奨学金制度を案内させていただきました。毎月、20 何万もらえるものですが、6 年間もらって 6 年間共立で働けば、返さなくてもいいですよというもので、その案内をしましたら 3 名の定員に 5 名の応募者があって、定員数に拘らず、希望者全員に奨学金をやろうということにしました。その学生が将来、共立に勤務してくれれば、先は長い道のりですが、最終的には医師不足の解消にもつながっていくのかなど、やはり早い時期からのアプローチが大事だと感じたひとつの例です。

それでは、小野会頭もいらっしゃっていますので、協議事項、本日のテーマで「地域社会が求める人財について」、産業界のお立場からご意見を頂いた後に、ディスカッションできればと思いますので、小野会頭、よろしくお願いいたします。

5 協議事項

(小野会頭)

平成 28 年度第 1 回のいわき市総合教育会議にオブザーバーとして呼んでいただきまして、大変光栄に思っています。

今日は、産業界の視点から教育にどれだけ関われるかということを私なりの視点で、述べてみたいと思いますので、どうぞ活発な論議が起こるように期待しております。

福島県教育委員という立場で、毎月定例会があるんですが、そこで私が言い続けてきた一つの大きなモットーが震災以降あった。それは、これだけ大きな負の遺産を持った福島県が子ども達にまで負の遺産を負わせていいのか、ということなんです。ですから、美辞麗句はいい。とにかく、子供たちにハンデじゃなくプライドを持てるような、そういう教育を教師が丸となって、取り組んでいかななくてはならないんだと。それに対しての環境整備は県で一生懸命やるから、自信をもって子ども達に接して欲しい。そして将来いい意味での人財の還流が起こるように福島県で人財育成を図って欲しいということをお願いしてきました。このプライドというのが、一つのキーワードになって、県知事も最近使うことが多くなってきました。それに関連して、いわき市を今日初めて眺めさせていただきますが、前回の教育委員会で、実はいわきで、いわきアカデミアということ、今施策として進行していて、教育には今までは一歩引いていた商工会議所が関わることになりましたと言ったら皆びっくり仰天してまして、その動きを是非、毎月県で報告してください、ということになりました。したがって、この会に呼ばれたというのは、私としては大変、出足としては運がいいなと思ってまして、これが成功しないと、県の高校教育も失敗するんです。ですから、さっき言ったように美辞麗句並べても仕方がない。現場がどう対応していくかということに尽きるので、そういうことを、まずいわき市から発信してもらいたいなと思って、今日は馳せ参じたとい

うことであります。

具体的に、いわきアカデミアになぜ賛同したか、これからプライドを持って、子ども達に教育を授けていくためには、やはり地域と教育の現場でもう少し接点を多くして、地域に役立つ、または役立ちたいという人の想いを受け止めてあげなければならないと思うんです。なんとなく今までは偏差値ばかり上げて、門戸を閉ざして産業界とは距離を置いて、就職活動の時だけは、薄っぺらなテクニク的な面接の対応とかで就職活動してきたと思うんですが、もっともっと早い時期に産業界と接していれば、当然そこには夢が生まれてくると思うんです。だから、我々大人が、夢とか希望を持ちなさいというのはあまりにも身勝手な話であって、それにはやはり産業界・教育界・行政としても情報を子ども達に与えないと。どうやって夢を構築していったらいいのか、当然わからないわけです、接点が無いんですから。そうして考えてみますと、このいわきアカデミアで早い時期に産業界と接するという事は、私はある意味では、東京の方々の本物と接するという事にも通じるんですが、いわきで頑張っている社長さんの後ろ姿を見て、そして、ただ賃金だけじゃないんだと、やり甲斐というものもあるんだよということを早い時期にわかってもらえれば、そこに自分がなりたい夢が生まれるし、将来の設計が早い時期から頭の中で計れるのかなと思っています。そういう意味で賛同しました。

この事業の背景というか、今の企業はどういうところに困っているのかということ、人財面から話してみますと、震災5年を過ぎまして、企業にとって、まず急激に社員の確保が真剣な課題になってきました。それと、5人以下の小規模事業者が多いんですが、後継者不足が深刻な問題となってきました。去年の例で、新入社員が当然入ってきましたが、その子達を見ていると、チャレンジする心が育まれてない、と言う社長さんが多かったです。特に、年長者とのコミュニケーションが全くできないということも、私はかなりショックを受けました。それから、深く考える習慣がついていないということも言われた社長さんがいました。それから、地域の歴史や課題をあまり分かっていないということもありました。したがって、判断軸が過度に自分中心となっているような子ども達が多く、3ヶ月で辞めてしまうという子もいたという事例もありました。とにかく、企業を支えるのは人財であり、「じんざい」の「ざい」は「材料」でなく財産の「財」を私は使ってますが、それを育成するための教育プログラムが今こそ必要だと感じたわけです。今までは大手企業は自社で行っていました。ところが、中小企業・零細企業・5人以下の小規模企業だと、出来るはずがないわけです。自分の範疇の中でそういう指導、プログラムを構築するというのは、並大抵のことではない。ですから、行政と産業界とNPOと、様々な団体がコラボして小学生から大学まで一貫した、この教育プログラムができないかなというのが根本的な考えでありました。主に商工会議所が合致するのは高校生以上になると思いますが、まさにこれから志を立てて、そして人生を設計しようという時期に、全く産業界に触れずに、ただ大学受験をして東京に行ってしまうから、当然戻ってくる人も少ない。いわきのことをあまり知らないわけですから。あとは U

ターンの割合、これも、いわきに対する郷土愛というのが薄れていますから。今は、実は若干変わってきているんですが、震災以前から直後、本当に薄れてましたから、なかなか戻ってこない。当然、人財不足に陥るのは目に見えていた。しかし、5年目にしてこれ程酷くなるとは私も思っていませんでした。

そこで、私が会頭として今まで何をやってきたかといいますと、まさに新しい産業の集積。何としてもこの負の遺産を逆手に取るというか、そういう発想も必要かと思ひまして、過去は変えられない。ただ、この過去を過去のまま引きずるのでなく、何か未来につなげていけないかという発想があった。私は2060年に15万人になるというグラフは、私は一番腑に落ちないんです。手をこまねいては当然そうなるでしょうけど、いわき市ほど、これから人口が増えていく地域はないと私は思っているんです。ここが駄目だったら、日本全国どこやっても駄目です。ですから、それだけの需要を抱えているのに、ただ人口推計を統計学的にやったのでは全く意味がない。さっきも言ったように、県で美辞麗句を並べても仕方ないと私が噛みついたのは、そういう意味です。本当の意味で子ども達に夢と希望を与えるような現場主義を貫かないと、子ども達はせっかく志を持とうとしても、逃げて行ってしまうということなので、私は、早い時期に人口40万人都市にしたいと公言していますが、それには、魅力ある産業を発信できるかです。その魅力ある産業が今までいわきに無かったのかというと、そこが大きな誤解。

「はやぶさ」の部品まで作っている企業まであるくらいですから。他の県、他の都市のことは言うつもりはないですが、いわきには「はま・なか・あいづ」として比べれば、一番いわきは可能性を秘めている。津波で人的被害、原発事故で風評被害、実害も一番受けました。でも、これからイノベーション・コーストとか国のバックアップがあって、安倍総理もアンダーコントロールと言ったからには、何としてもコントロールをして、もう安全宣言を出せるようなところまで早く持ってきてほしいと、私は総理に直訴したいと思うくらいなんです。オリンピック前にそれをやらなければ手遅れになる。人口減少は食い止められると私は思っている。夢物語ではない。それにはやはり、いわきにも魅力ある産業がたくさんあるんだと発信し続ける。規模は小さくても、世界的なシェアを持っているものづくり企業がたくさんあるんだと。第一次産業で今、漁業が再起不能のような形になっていますが、当然それに伴う水産加工業が一番、いわきでは困窮しています。常磐沖を回遊しているのに、小名浜に揚がった魚だけが駄目だなんて、風評以外の何物でもないわけです。必ず、国のトップが言えば、もういつぺんに吹き飛ばすようなものだと思いますので、私と市長と安倍総理が言えば払拭される。今、いわきは厳しい産業もありますが、押し並べて言うものづくり産業はトップクラス。ましてやイノベーション・コーストで今回新たに70億補助金が付きましたが、どんどんいわきに集まってきます。この前、四倉工業団地の話で会議に行ってきましたが、あれだけ幅広い第二造成工事も行われております。今、3,800社の会員を抱えていますが、一つもいわきから本社を移転していない。一部、日本海水は仕方ない、海が汚れてしまったんです

から。でも、また別な事業を起こします。このいわきの潜在性を、もっと子ども達に教育として教え込んでいくべきじゃないかと。普通、これだけの災害を受ければ、もう意気消沈して経済は崩壊します。ところが今、原発の補償を受け取る企業は、わずか2割。あとは、売り上げは回復しています。ある意味では原発の補償は貰えませんが、これからの5年は自立しなければならない5年間だと思います。だからこそ、今までと違った転換期に来ている。これからこそ、甘い汁に誘われず、自分たちの力で、自分たちの持っているものをどんどん全国に、世界に発信していく時期がこの5年間であり、子供たちにいい影響を与えるのが、このいわきアカデミアであると、私は信じてやみません。

そのためには、商工会議所3,800社、全員に協力させたい。ただ、現実的に3,800社皆関わるわけにはいきませんので、主にやりたいことは、まず、いわきに一部上場にも負けないような中小企業がたくさんある、その社長を私は紹介したいんです。会社へ連れて行って、お父さんがどこで働いてるかも分からないような子ども達ばかりですから、今、社長さんと実際話してみて「俺はこういう想いでこの企業を築いた」「今でこそトップシェアになったが、昔は誰もお金を貸してくれなかった」とか。そういう現実の話聞いて、子ども達はそこから志が目覚めていくと思うんです。ただ偏差値を上げる教育だけでは、社会に出て通用しない。

今、我々が就活で選ぶ子ども達というのは、偏差値、どこの大学、全く関係ないです。どれだけ、その社長が見ていようが見ていまいが、その会社のために汗を流してくれるか。これが一番貴重な人財です。そういう子ども達を、このアカデミアで育てるためには、やはりプレゼン力が必要です。自分で課題を見つけ、解決策を見つけ、そして、社長に怒られようが自分でやってみる。そういう力をアカデミアの商工会議所が担当する(仮称)「高校生いわき志塾」では、やってみたいと思っています。その社長の背中を見て何も感じない人はいませんから。いわきで、自宅から通えとはあえて言いません、アパートを借りても構わないですが、自宅から通えばどれだけ安い生活費で、自分の生きがいのある会社をいわきで見つけて、そしていわきで結婚して子どもをつくって、いわきで育てるといふ、私はこれが教育に求めるプライドなんです。それを、県がまず示せと私は言っているんです。それを市町村任せにしては駄目だということで、今、一生懸命県でやっています。いわき志塾をはじめ、このいわきアカデミアを今、注目しています。ですから、失敗は許されませんので、私に関わった以上。立派な子ども達を育てたい、数ではない。そういう志を持った人を育てたい。震災以降、志を持った人が増えているんです。目の前で津波で流されていったおじいちゃん、おばあちゃんに対して、自分たちには何もできなかった。であれば、これからは福島県でいわき市で生計を立てて、この地に恩返ししたい、亡くなった方々の魂に報いたいと。我々が何を言おうが、子ども達の方が利口ですから。それを、教育界または産業界の我々が受け止める力があるかどうかです。そういったことを考えると、このいわきアカデミアを何としても成功に導いて、いわきからこういう改革を発信して、そして県の教育委員をぎゃふんと言わせる

くらいの立派な船出をしてほしいなど。それだけの指導する方の人財はなんとか経済界で確保します。これが行政と一緒にできるということが私の理想でした。なかなか今まで、ばらばらでできませんでした。同じビジョンで、同じ視野で、そして子ども達のために何とかしなくてはという想いが共通しています。だからそこで一緒に進んでいける素地があるわけです。

私の私見も含めて述べさせていただきましたが、商工会議所 3,800 社、皆様から要望があれば、できる範囲内で全力でサポートします。既に 200 社はインターンシップをしています。これは東北でトップ。ただ、地元で、首都圏からは呼んでいません。でも、いわきで最先端のロボット、バッテリー、水素、風力発電、それから IGCC の火力、産業集積が興っていくわけです。これは日本全国、いわきしかないです。だから、人口が減っていくというあのグラフは、私は見ません。我々自身も夢を持たないと。目標を設定して、それに近づこうという努力をしないと子ども達もついてきません。「15 万人になりますから一緒に頑張りましょう」ではついてきませんから。私は、少なくとも 40 万人くらいには増えるのではないかと。全盛期に 36 万人いたわけですから。あと 4 万人は、市に正式に住んでいる方、これから住もうとしている方が住民登録をすれば増える、産業集積が興れば。その時には JR の高速列車、高速規格で走らせていただけでしょうし、全てが好循環で回っていくわけです。

教育と経済はコインの裏表。どちらが欠けてもコインとして使えないということは、どちらが欠けても生活できない。そういう視点で、ぜひいわき市から子ども達の、プライドを持った教育を発信して行ってほしいと感じまして、私からの激励も含めて、ご説明に代えさせていただきますと思います。ありがとうございました。

(清水市長)

熱いメッセージ、ありがとうございました。それぞれに感じたこと、これからこうあってほしいとか、何でも結構です、では一人ずつ。

(山本委員)

小野さんのお話を聞かせていただきまして、相変わらずいつも熱い子ども達への想いを強く感じました。私は震災後今まで、いわき市教育委員会でやってきました生徒会サミットやいわき志塾を通じて、子ども達の様子を見て感じたことは、やはり、市内の企業の方、市外の方、いろいろな方から子ども達が生き方を学ぶこと、生き方を聴いたり、その中で自分と向き合っていることができる。そこで何ができるかという、自分なりの目標を持つことができる。学校は基礎学力を付けてきますから、学校だけではできないんです。そういう機会を子ども達にたくさん与えることによって、子供たちに夢を持たせる。目標を持って、自分もこうなるために、こういうふうに頑張ってみようかなという気持ちにさせる。素晴らしいなと思いつつ、今まで取組みを見てきました。今

回、このアカデミアを見まして、高校生にその機会を与える。今高校生の中では、職業について考えること、職業の選択や決定を、割と先送りにする傾向が見られます。また、心配されるのは、自立的な進路選択や決定とか将来計画が希薄なままで進学・就職をするという子ども達が増えているような感じもします。そのような子ども達に、機会を与えてあげる。今、いわき市の商工会が全力で頑張りますというお話を聞いて、大変心強いです。自分たちの現実と、今、いわきの商工会の皆さんとの現実を見る。その中で自分で今から取り組んでいく、子ども達はその目当てを持ちます。こういう機会を与えられる子ども達は、本当に幸せだと思います。これが小学生から社会人まで一つの流れとして、いわき全体で、官民連携のもとに取り組んでいくということ、これは成功させなければならないと思います。

学校でも、小・中学校で付けてくる基礎学力と、高等学校で付ける専門学力、そしてもう一つ必要なのは、社会人としての社会的実力がなくては、これからの世の中に出て子ども達はやっていけない。そこが私は、この中から感じられました。とてもいい計画だと思います。先日、復興創生推進委員会を終えて感じたことは、これからは、皆と同じ行動をして言われた通りやって自分の手の届く範囲内でやっていく子どもでは、いわきはやっていけない。これからは、自分の目標を設定して失敗を恐れずに行動に移していけるような人をつくっていかなくてはならない。その為には、官民皆でそれを応援すること。もう一つは、創生推進大会で感じたんですが、やってみないかと自分が思ったら、呼びかけて目標に向かって周囲の人と協力して取組む、人と繋がること、相手に説明して納得してもらうこと、人の心を動かせるようなプレゼン、そういう子ども達も考えていかなければならない

もう一つ感じたのは、情報技術の発展でいわきで生活や仕事をしていても、国を超えて個人対世界、ここの企業対世界というやりとりの機会がもう出てきているんだということ。やはり子ども達は、自分のことに責任を持つと同時に、情報活用能力、学校でもやらなければならないことなんですが、世界に通用する情報モラルなども子ども達に身につけさせていかなければならないということを感じました。このアカデミア、とても素晴らしいので、ぜひ成功させてあげたいと応援していきたいと思います。

(清水市長)

では、根本委員。

(根本委員)

私は、立場的には保護者、PTAの活動の中で、PTAは、児童や生徒たちの応援団だと思ってやっていました。これは、ただの応援団ではなく、自尊心を持てる、そして独り立ちできるようにするための応援団というつもりで活動してきました。自尊心というのは、会頭がおっしゃるプライドということになるのかなと思います。その中で私が思

っていたのは、いわきはどのような歴史だったのかというのを、自分も含めて、知らない子がとても多いんです。ここの中にもありますが、そういった事を大切にして、小さい時からいわきというのは、一例ですが、こういうお殿様がいて、こうだったんだというようなことも含めて、皆がわかるようにするということが、自尊心に繋がるのかなと思っています。

その発展系になるのかもしれませんが、皆さんとの交流もシェアを広げることになるのかなと思います。例えば、延岡、岡崎だとか、県のPTAでは、震災後に熊本の水俣との交流。水俣病の方たち、水俣の子ども達は皆病気を持っているのではないかという偏見もありまして、辛い思いをなさったところがあるんですが、福島の子供達を呼んでくれて、そこでこういうことがあった、だけど皆、今元気でやっているんだよという交流もありました。あと長崎市長から震災後、いわきの中学生を招いていただき、交流が毎年続いています。そんな交流もしていただけると、このアカデミアの中にあるような人財づくりになるのかなと思いました。

もう一点、このプログラムはありますが、やはり私は、小・中・高校とも学校が基本だと思うんです。そこでの連携のためには、いわき志塾にも出席して思ったことですが、現場の先生方がそこに来てそのプログラムを見てるかということ、あまりそういう機会が無いんです。見てもらえれば、これはいいというのはわかっていただけだと思うので、このアカデミアの中でも、先程校長会というお話もありましたが、ぜひ現場の先生方にもそこに足を運んでいただけるようになれば、本当の意味での連携ということになるのかなと思っています。

(清水市長)

それでは、蛭田委員。

(蛭田委員)

今、会頭から新入社員として入ってきた子ども達で、深く考えない、地域・歴史・課題がわからない、チャレンジ精神が無い、私の子どもに完全に当てはまると思ひまして、ゆとりの世代ではあったんですが、今もまだのんびりと暮らしている、やはりそういうところはあったのかなと思います。この人財育成プログラムを拝見しまして、今回抜けていた高校生のところにキャリア教育のプログラムが入りまして、小学生から社会人ですが、これは大学生を一応想定しているのかと思うんですが、その既卒の方もぜひ入れていただければ、もしかしたら、東京・大阪などでいわきに帰りたけれど就職先が無いからと困っている子も居るのではないかなとも思っているんです。素晴らしいプログラムだと考えます。ただ、これを実践するには本当にどうしたらいいかと考えた時に、子どもを育てている家庭の理解が無いと成り立たないのではないかなと思います。お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃん、家庭の家族の方にも理解していただける

ようなプログラムもしくは配置、受け皿みたいなものも考えていただけるといいのかなと思いました。これからのいわき、やっぱり背負っていただくのは子供ですから、ぜひこれは成功していただきたいと思います。

(清水市長)

馬目委員。

(馬目委員)

今日、見せていただいて、小野先生、津田さんの話を聴いて、こういうふうに関、世の中は変わってきているということを実感として認識しました。教育委員会との対応の仕方という非常に重要な問題で、しかもこの内容から見ますと、小・中・高・大と進む中での小学校から認識させたいということで、地域を生徒に教えるということは極めて重要なことで、大賛成です。私は、常々学校教育について考えていることは、やはり地域について生徒が学ぶということは、それ以上に、教える先生がまず学んでもらわないと困るということ、私の持論ですが、先生の教育ということがより一層、このような問題が出てくると重要になってくる。確かに、できる子どもはそんなに教えなくても上に進むわけです。しかし、中くらいから下の子どもというのは、先生の一言一言が極めて重要な、人生の中で残る言葉なんです。ですから、先生を学問以前で大いに啓発教育してもらいたい。しかし、なかなかこういう問題に対して、今から急激にそういう事業をやろうと言っても、先生自体が固まっていますから。我々が教えるのは、やはり学問的なことがまずトップなんだという気持ちから乗り越えて、こういうものに移るのは非常に難しいと思うんです。教育委員会の指導方針として、これから急激にはできませんが、ひとつひとつ取組んでいきますと、小野先生が言ったようなことが、もう現実の問題としてあるとすれば、先生方をまず教育して、と同時に生徒にも反映させるということが、教育の問題としては重要なことではないかと思つづく認識した次第です。

(清水市長)

教育長。

(吉田教育長)

子ども達が、大きな震災の後に確実に地域に対しての熱い想いというのが、それ以前と全く変わってきているという実感はあります。実は、阪神淡路大震災が起きた後もそうだったらしいんです。その子たちにどう応えていくかと、兵庫県が取組んだのは「キャリアスタートウィーク」ということで、1週間の職場体験を皆でやりましょうという動きが出たんです。当然、受け入れの企業もやらなくてははいけないし、地域の方たちもそれをちゃんと見守っていかなければいけないというシステムをしながら、少しずつ変

えていったという実績があるんです。それ以上に今回の取組というのは、その上をいっていると私は思っています。実は、震災前からなのですが、小学校の社会科の学習で産業教育について学習します。先生方は、学校のすぐ隣に素晴らしい企業があるのに、わからないんです。だから、社会科見学、工場見学どうしよう、隣にあるじゃない、と言われて初めて話を聞きに行くと、自分の学校の隣にこんな素晴らしい工場があったんだということに気が付くんです。中学校では、職場体験をしています。先生方が子ども達に提示する職場、例えば、トリミングだったりお菓子屋さんというのは、子ども達は好きですから行くんです。ところが、いわきには凄くポテンシャルの高い、小さいけれども素晴らしい企業が山のようにある。ただ、先生方は知りませんから、絶対それは受け入れ側も含めて調整をしながら、メニューとして学校に提供することも大事になっている。小学校のこともそうです。

では、高校はどうなのか、普通科高校でキャリア教育ゼロです、現実。インターンシップ、本当はやらなくてはいけないと言われているんですが、やっている学校は恐らく無いと思います。専門学校も農業高校も含めて一部だと思います。例えば、磐城農業高校の食品流通の子ども達は、商品を作りながら地域との関わりもあって、別に企業に行くわけではないけど、日常としてやっている。ああいう子たちは、育っていくはずなんです。ところが、1週間くらいインターンシップに行って、面接の技術的なことを少し勉強してというのは、やはりミスマッチを起こすわけです。だからそこに風穴を開けていくというか、学校の考え方も少し抜けていくためには、今、いわきの小・中・高・大学と繋がっていくような取組みが凄く大事になってくるかなと私は思っています。

人財育成も地産地消だと思っているんです。今、小・中学生は志塾で、日本中のトップの方々に来ていただいている。それも大事なことなのですが、やはり本当は心の中では、中学校のいわき志塾も、例えば勿来志塾とか湯本志塾というのがあって、その地元のいろいろな方たちが関わりながら、子ども達を育てていくという体制が将来できたら理想だと思っているんです。ところが、なかなか難しい。今、教育委員会を中心に市内全体を集めながらやっていますが、やはり地産地消は凄く大事で、それを今回、高校生版の志塾の中で取り組んでいただけるというのは、一つのモデルになるので、もしかするとそれが、戻って中学生の志塾にも広がっていくということなのかなと思います。スポーツなどは皆繋がっていて、小・中・高と先生方がその子たちをずっと見守りながら育てているんですが、いざ、社会に出てからの資質・能力を育てるという部分については、殆ど共有ができていない。これが一番地域にとっては大切なことなので、この取組みは本当に皆で力を合わせながらぜひ成功していくことが、今後のいわきのためになるんだろうと、これは信じて固くないので、ぜひ皆さんと力を合わせながら教育委員会としても、できることは一生懸命やっていきたいという想いでおります。今日はありがとうございました。

(清水市長)

学校は、聖域ではないですが、今まで閉ざされた空間だったのではないかなと思います。先生もそういう意味では地域とあまり関わらずに、とにかく子どもだけに教えていればいいんだというような想いは強かったのではないかと思います。自分も県議会議員の時に、その閉ざされた学校を推進すべきということで「学校へ行こう週間」といって、その後「学校教育週間」という元の名称に戻ったものですが、学校に不審者が入る事件が起きてから、なかなか誰でも入れる開かれたというような形には、一時ならなくなってしまったというのは残念なんです。やはり地域と一緒に子ども達を育てていくという姿勢が大事だと思っています。そういう意味では、先生方の意識改革というのにも必要だと思いますし、先程、先生の資質というような話もありましたが、先生方の志塾みたいなものも今後、あってもいいのかなと、やる気のある先生が集まって、もっと子ども達の心に火を着ける、やる気スイッチを入れられるというのをディスカッションするような場があってもいいのかなというのを感じました。

高校のキャリア教育で一つ心配なのは、部活をやっている子どもが多いので、その両立という点でどうなのか、上手く構築していければなと思っています。部活をしても高校生版の志塾に参加できるようなことも、検討してもらえればなと思っています。学校教育の中で大事に大事に、皆平等なんだと育てられて、高校卒業後、いきなり野に放たれて、後は競争社会に入っていくわけですから、それでは籠の鳥ではないですが、野に放たれた瞬間生きていけなくなってしまうと思うんです。そういう意味で、学校の中で、企業で頑張っている人、社会で頑張っている人たちの背中を見て、自分もあなりたいとか、こういう企業で働いてみたいと思えるようなことを、このアカデミアでやっていければなと思っています。

また、今「チャレンジノート」というのを教育委員会で制作中です。ぜひ教育委員の皆さんにも意見を。

(吉田教育長)

既に、意見をいただいたりして、やっております。

(清水市長)

たかがノートなんです。先生の教え方一つで多分ガラッと変わるのではないかと。先生の教え方が大事なので、ノートがあっても何も教えなければ、子ども達だけで書いても何の意味も無いと思いますから。そういう夢の持てるようなノートも今制作中ですので、ぜひ期待をしていただければなと思っています。最後に会頭の方から。

(小野会頭)

お話を聴いていて大変光栄ですが、今それぞれの方からキーワードが出ました。根本紀太郎さんからは PTA、保護者の立場で理解が必要と。馬目先生からは、子ども達は

先生が接する機会が一番多いんですから、先生がまず変わらなければ、子ども達もチャンスはあっても、もしかしたら逃してしまう。蛭田さんからも同じように、それぞれの理解が無いと。だからこそ、学校と行政と経済界が連携なんです。

私は、学校の先生に対しては県の教育委員会で徹底的にやります。門戸を開かない自称進学校と言っているところこそ、私は徹底的にやってみたいと思っています。それが学力向上にも繋がっていく。色々な刺激を受けないと人間は育ちませんから、学校、行政、そして産業。人が無くては、経済活動はできないんです。最先端の企業に送り込む人財が、地元にはないということ程、寂しいものはない。それも含めて連携するという意味は、そこにある。同じビジョンを共有するということです。県でも知事、教育長であろうが、共有してもらわないと根本改革はできません。進学校こそ門戸を開いて、社会と一緒にやれば学力も伸びます。

私は、一部のエリートを育てるプログラムとは思っていません。底辺を底上げするプログラムとして捉えています。エリートばかり集めても仕方ない。東大に行く人は放つといっても東大に行きますから。官僚になったり、日本を背負って立つでしょう。でも、ほぼほぼ底辺ですから。もうどうしていいかわからず、迷って迷って悩んで、そして挫けて立ち上がり、また躓き。そういう子ども達に手を差し伸べるのが教育です。いくら東大に行く子がいい点数を取っても、底辺が0点じゃ駄目。だから底辺の底上げを保護者と学校と行政と、そして産業と一緒にやっていきたいと思います。全て自分でできませんから、NPOにも振りますが、皆同じ目標でやるのが、子ども達の志に応える大人の責任であり、道筋を作るというのが、大人の最低限の役目です。安倍総理にここに来て安全宣言をしてもらうまでは私は諦めないと思っています。教育委員の皆さんと連携しながら。もし県に言いたいことがあれば、できるだけ発言してきますから、至らない点があれば教えてください。

いわき市の小・中は、私から見ても本当にコミュニティスクールをはじめとして立派にやっているといます。これからも続けてほしいし、その志というのを一人ひとり大事にしてほしい。学問の出来不出来じゃなく、志。これが震災以降大きく変わったところです。わざわざ原発の近い、ふたば未来高校になぜ人が来るんですか。そこに学校を作った意味というのは、志を持った人が集まってほしいからです。負の遺産に負けず、それを跳ね返す廃炉技術とか、いろいろな事を学んでほしいと。そうすれば世界最先端ですから、恐らく修学旅行どころではなく、世界から来ると思います。

いわきも、市長を中心に好循環の流れになっています。教える方の人財としては抜群ですから、驕らずに子どもと一緒に成長していくと、先生方に言いたい。上から目線で、そういう考え方ができない先生が多い。子ども達から教えてもらうことの方が多いです。皆さんと一緒に、これから貢献できればと思っています。

(清水市長)

ありがとうございました。県教委にも力強い、熱いいわき市出身者がいるということ、頼もしく思います。今まで、教育委員会のみでいわきの教育を考えていたのが、総合教育会議ができて、行政の企画部門も一緒になって作ってきたというのが一つ、こういった形になったのではないかなと思っております。気合いを入れて、それぞれの部門で頑張っていたきたいと思います。

それでは、今日の第1回総合教育会議をこれで閉じさせていただきたいと思います。議長職を解かせていただきます。ありがとうございました。

6 その他

(司会)

市長、ありがとうございました。

そのほか、協議事項以外で、何かございますでしょうか。

無いようでしたら、次回会議の日程等についてお知らせいたします。当会議は、今年度におきましては今回を含め3回の開催を予定しており、次回につきましては、10月中旬頃に開催予定です。改めて通知させていただきますので、よろしくお願いいたします。

7 閉会

(司会)

それでは以上をもちまして、平成28年度第1回いわき市総合教育会議を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。